



### 好調を維持するアブダビ首長国の経済

(一財) 国際開発センター  
エネルギー・環境室

研究顧問 畑 中 美 樹

2014年も7%弱の経済成長の見込まれる  
アブダビ首長国

アブダビの2013年の経済成長率は7.4%と高率を記録した。2014年についてはやや低下するものの、それでも6.7%となると予測されている。アブダビの今後の経済についてアブダビ経済開発庁のシュルク・アル・ザアビ開発指標局長は、2014年2月初旬、次のように語り政府投資の奏功から堅調に推移するとの見通しを明らかにした。周知のように、アブダビは2013年から2017年までの5年間で、鉄道、港湾、美術館、石油化学などに合計3,300億ディルハム（約900億ドル）を投資することを明らかにしている。

- ① 政府投資の恩恵を主に受け加速的に伸びている製造業、建設業、観光業及び貿易がアブダビの経済成長のけん引役である。
- ② アブダビの2013年時点での原油生産量は270万B/Dだが、2017年には310万B/Dに拡大する。
- ③ 但し、原油価格は今後緩やかに低下し2013年の109ドル/バレルが2017年には95ドル/バレルとなるだろう。

そのアブダビ首長国の属するアラブ首長国連邦(UAE)も、2014年に4.5%の経済成長を記録すると予測される。例えば、スルタン・ビン・

サイド・アル・マンズーリ UAE 経済相は次のように見ている。

- ① 私は控えめな見方をするので UAE の2014年の経済成長率は4.5%から5%程度と考えている。
- ② 勿論全ては原油価格次第だが我々は低下すると見ている。

中東諸国の2014年の経済成長率は3.3%の  
見込み (IMF 予測)

同相の予測する UAE の2014年の経済成長率は国際通貨基金 (IMF) の見方とほぼ同じである。因みに、IMF は UAE の2014年の経済成長率は4.5%で2013年と同水準となると見ている。IMF の予測する UAE の2014年の経済成長率4.5%という見方は、その他の中東諸国の成長率の見通しに比べて高いものである。何故ならば、IMFは2014年1月21日、2014年及び2015年の世界経済見通しの改定を発表したが、それによればアフガニスタンとパキスタンも含めた中東・北アフリカの2014年の経済成長率は3.3%と2013年10月見通しの3.6%から引き下げた予測としているからだ (表1)。

IMFの新たな見通しによれば、2014年の世界経済の実質成長率は3.7%と2013年10月見通しの3.6%から引き上げられた。但し、2015年の世界経済の実質成長率は3.9%と昨年10月の見通

しが据え置かれている（表1）。

IMFは2014年の新興市場及び発展途上経済諸国は5.1%と2013年10月の見通しのままとする一方、2015年の実質経済成長率については5.4%と昨年10月の見通し5.3%から僅かながら引き上げた。

注目される原油価格は、2014年が2013年比▲0.3%、2015年が2014年比▲5.2%と何れも下落すると予測している。これを2013年の年平均OPECバスケット価格1バレル105.87ドルに当てはめれば、2014年、2015年のOPECバスケット価格はそれぞれ105.55ドル、100.06ドルということになる。

ところでIMFは世界各国の経済状態を調査し、その診断結果を諮問報告書の形に取りまと

#### 筆者紹介

慶應義塾大学経済学部卒業（1974年3月）、1974～1980年富士銀行勤務後、1980～1983年(財)中東経済研究所出向。1983年富士銀行復職後（1月）、同行を退職（10月）。(財)中東経済研究所・カイロ事務所長を経て、1990年同研究所退職。1990年12月～2000年9月(株)国際経済研究所勤務（主席研究員）、2000年10月～2005年3月(財)国際開発センター エネルギー・環境室長、2005年4月よりエネルギー・環境室研究顧問。中東や北アフリカ諸国の王族、政治家、政府関係者、ビジネスマンに知己が多く、中東全域に豊富な人的ネットワークを有する。専門領域は中東経済論。

※著書『「イスラマナー」がわかると経済の動きが読めてくる！』（すばる舎、2010年）『中東のクール・ジャパンーズ』（同友館、2009年）『中東湾岸ビジネス最新事情』（同友館、2009年）『南地中海の新星リビア』（同友館、2009年）『今こそチャンスの中東湾岸ビジネス』（同友館、2009年）、『オイルマナー』（講談社現代新書、2008年）、『石油地政学』（中公新書ラクレ、2003年）

表1 世界経済見通し（概観）

（単位：％）

	2012	2013	2014	2015
世界	3.1	3.0	3.7 (0.1)	3.9 (0.0)
先進国	1.4	1.3	2.2 (0.2)	2.3 (▲0.2)
新興市場及び 発展途上経済諸国	4.9	4.7	5.1 (0.0)	5.4 (0.1)
中東欧	1.4	2.5	2.8 (0.1)	3.1 (▲0.2)
発展途上アジア	6.4	6.5	6.7 (0.2)	6.8 (0.2)
中南米・カリブ海	3.0	2.6	3.0 (▲0.1)	3.3 (▲0.2)
中東・北アフリカ/ アフガニスタン/パキスタン	4.1	2.4	3.3 (▲0.3)	4.8 (0.7)
サブサハラ・アフリカ	4.8	5.1	6.1 (0.1)	6.8 (0.1)
原油価格	1.0	▲0.9	▲0.3	▲5.2

注：（ ）内は2013年10月予測値との差異。

表2 UAEの国内総生産・実質GDP成長率・消費者物価上昇率の推移及び予測（2008～2018年）

（単位：億ドル，％）

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
名目GDP	3,150	2,550	2,870	3,490	3,770	3,870	3,980	4,140	4,310	4,500	4,740
実質GDP 成長率	3.2	▲4.8	1.7	3.9	4.3	3.6	3.7	3.8	3.5	3.4	3.5
同上 炭化水素	▲2.4	▲8.9	3.8	6.6	5.2	2.1	2.6	3.1	2.1	1.8	1.8
同上 非炭化水素	6.0	▲2.9	0.7	2.6	3.8	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
CPI上昇率	12.3	1.6	0.9	0.9	0.7	2.0	2.4	2.5	2.7	2.9	3.0

出所：IMF Country Report No.13/239, United Arab Emirates 2013

Article IV Consultation, July 2013

注：1）2008～2011年は実績。

2）2012年は推計。

3）2013～2018年は予測。

めて発表している。UAEに関する諮問報告書は昨年7月に公表されたが、それによればUAEの実質経済成長率は2013年3.6％、2014年3.7％と予測されていたので実際にはそれを上回ったことになる（表2）。

### IMFの見るUAE経済のリスク要因

IMFのUAE経済に関する諮問報告書は、同国経済の停滞を招く恐れのある外部リスクについても分析し、次の3点をリスク要因として指摘していた。

第一は、新興市場経済の落ち込みである。IMFの諮問報告書は、いわゆるBRICSと呼ばれるブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカによる投資の停滞とこれら諸国におけるその後の経済成長の低下は、世界経済の成長率を初年度に約1％引き下げると共に、原油価格を約20ドル/バレル低下させ北海ブレント価格を2017年まで90ドル以下にすると予測していた。また同報告書は、その場合にはGCC諸国の経済成長率も初年度に約0.75％低下し、その後数年はそうした状態が続くことになると見ていた。因みに、

UAEの非石油に占めるBRICSの比率は約25％に達している。なお、新興市場国への資金流入の減退はドバイの債務返済にも影響することが予想される。

第二は、世界的な金融危機の再来する中でのユーロ経済の回復の遅れである。諮問報告書は、この場合エネルギー価格が初年度に約4ドル低下し世界経済の成長率も約0.25％引き下げられると予測していた。さらに同報告書は、GCC諸国の経済成長率への影響は小さいものに留まろうが、UAE、特にドバイにとっては債務返済の繰り延べに影響が出てくる可能性があるとして指摘していた。因みに、世界的な銀行のUAEへの預金額は1,420億ドルだが、その引き出しが始まればUAEの銀行の中には流動性の問題が生じるところも出てきそうだ。政府系企業や民間企業にとっても資金調達コストの上昇という形で影響が拡大するものと思われる。

第三は、世界的な景気後退の長期化や世界的なエネルギー供給の拡大による石油収入の落ち込みである。UAEの輸出の50％超、政府歳入の80％は炭化水素によるものである。諮問報告書

は、一部の予測では原油価格が2014年中頃までに基本見通しから21ドル/バレル低下し、2015年中頃までに30ドル/バレル落ち込む可能性が約17%（6分の1）あるとしていた。その上で、仮に原油価格が基本見通しから30ドル低下した場合、政策の変化がないとすればUAEは財政赤字に落ち込み、財政赤字のGDP比率が2018年までに3%に達すると予測していた。さらに、併せてOPEC原油に対する需要が減少することになれば、UAEの炭化水素収入は一層減少を余儀なくされるとも見ていた。

なお、IMFの諮問報告書でのUAEの国際収支及び財政収支の見通し、アブダビ政府、ドバ

イ政府の財政収支の見通し、ドバイの債務残高及び返済予定は、それぞれ表3、表4、表5、表6、表7の通りである。

#### 過去最高を記録したアブダビ国際空港の乗客・貨物取扱量

アブダビ首長国の2013年の経済成長率が7%超であったことは先に見たが、経済業績の好調さを示すように同国の表玄関であるアブダビ国際空港の利用者数も順調に増加している。実際アブダビ国際空港は2014年1月下旬、次のような内容の声明を発表し2013年の利用乗客数が過去最高となったことを明らかにしている。

表3 UAEの国際収支の推移及び予測（2008～2018年）

（単位：億ドル）

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
輸 出	2,401	1,922	2,119	2,992	3,470	3,669	3,926	4,196	4,528	4,932	5,421
うち炭化水素	914	596	668	996	1,036	1,013	1,025	996	977	968	970
輸 入	1,858	1,570	1,656	1,963	2,228	2,468	2,700	2,993	3,336	3,741	4,212
貿易収支	543	352	462	1,029	1,242	1,201	1,226	1,202	1,192	1,190	1,210
所得収支 (純計)	54	42	▲1	1	3	8	18	30	59	70	84
サービス収支 (純計)	▲338	▲274	▲299	▲429	▲479	▲511	▲545	▲587	▲634	▲688	▲750
移転収支 (純計)	▲106	▲102	▲113	▲120	▲131	▲138	▲147	▲157	▲167	▲178	▲191
経常収支	153	18	49	481	634	560	552	489	450	394	353
金融収支 (純計)	▲199	90	35	▲297	▲400	▲508	▲478	▲372	▲285	▲237	▲201
誤差・脱漏	▲422	▲168	▲11	▲137	▲136	0	0	0	0	0	0
総合収支	▲468	▲60	73	47	99	52	74	117	165	157	152
中央銀行 租準備額	309	255	328	372	471	523	597	713	878	1,035	1,188

出所：IMF Country Report No.13/239, United Arab Emirates 2013

Article IV Consultation, July 2013

注：1) 2008～2011年は実績。

2) 2012年は推計。

3) 2013～2018年は予測。

表4 UAE 統合財政収支の推移及び予測（2008～2014年）

（単位：億ディルハム）

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
歳入	4,494	2,529	3,125	4,396	4,944	4,881	4,806
うち炭化水素収入	3,605	1,723	2,336	3,617	3,959	3,828	3,666
歳出	1,744	2,142	2,325	2,593	2,765	2,866	2,876
基礎収支	2,749	387	799	1,803	2,179	2,015	1,931
非金融資産取得（純計）	295	450	351	390	298	465	494
融資（借入）（純計）①	2,455	▲63	448	1,414	1,881	1,550	1,437
金融資産取得（純計）②	2,556	1,675	1,351	1,730	1,821	1,557	1,546
うちトバイ財政支援基金		489	147	70	29		
負債（純計）①+②	101	1,737	903	317	▲59	7	109

出所：IMF Country Report No.13/239, United Arab Emirates 2013  
Article IV Consultation, July 2013

注：1) 2008～2011年は実績。  
2) 2012年は推計。  
3) 2013～2014年は予測。

表5 アブダビ政府財政収支の推移及び予測（2008～2014年）

（単位：億ディルハム）

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
歳入	3,057	1,471	1,922	2,814	3,241	3,177	3,101
うち炭化水素収入	2,696	1,218	1,691	2,615	2,887	2,793	2,679
歳出	1,244	1,564	1,731	2,014	2,135	2,189	2,161
基礎収支	1,813	▲93	190	800	1,107	988	940
非金融資産取得（純計）	132	276	238	290	201	375	401
融資（借入）（純計）	1,681	▲369	▲47	510	905	613	539

出所：IMF Country Report No.13/239, United Arab Emirates 2013  
Article IV Consultation, July 2013

注：1) 2008～2011年は実績。  
2) 2012年は推計。  
3) 2013～2014年は予測。

- ① 利用乗客数、航空機離発着回数、貨物取扱量が何れも増加したのは、顧客のために施設・サービスを開発するとのアブダビ国際空港の現在の戦略が功を奏した結果である。
- ② このことは新たな航空会社が参入したほか、既存の乗り入れ航空会社もアブダビ国際空港への乗り入れを増やしたことから明らかである。

表6 ドバイ政府財政収支の推移及び予測（2008～2014年）

（単位：億ディルハム）

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
歳入	326	284	299	327	343	326	345
うち非税収入	250	213	228	247	260	250	263
歳出	238	279	256	279	294	285	295
基礎収支	88	6	43	48	49	41	51
非金融資産取得(純計)	143	135	89	71	57	56	57
融資(借入)(純計)	▲55	▲129	▲46	▲24	▲8	▲15	▲6

出所：IMF Country Report No.13/239, United Arab Emirates 2013

Article IV Consultation, July 2013

注：1) 2008～2011年は実績。

2) 2012年は推計。

3) 2013～2014年は予測。

因みに、利用乗客数は2012年に比べて約12%増の1,650万に達し、航空機離発着回数も2012年比約11%増の13万5,213回、貨物取扱量も2012年比約24%増の70万6,000トン記録した。なお、アブダビ国際空港発の航空機の向かった目的地の上位5カ国は、1) インド、2) ドイツ、3) 英国、4) タイ、5) サウジアラビアとアジア、欧州、中東の各地域に見事に分散している。

またアブダビ国際空港のトニー・ダグラス最高経責任者（CEO）は、昨年の業績を振り返り次のように言っている。

- ① 2013年はアブダビ国際空港にとって特に多忙な年であった。私は皆の刻苦勉励が統計数字により報われたことを嬉しく思う。統計は我々が過去最高量の乗客及び貨物を取り扱い、航空機の離発着数も過去最高であったことを示している。
- ② 我々は2013年に新たな到着ホールであるターミナル1とターミナル2を開設し、2017年7月に事業開始予定のミッドフィールド・ターミナル・プロジェクトでも大きな進展を見た。このプロジェクトが終われ

ばアブダビ国際空港の乗客取扱いは年間3,000万人に増加するだろう。

アブダビ国際空港の乗客・貨物取扱量が過去最高であったことを反映するように、アブダビのホテルも来客数、顧客滞在数、売上の何れにおいても過去最高を記録した。アブダビ観光文化庁（TCA Abu Dhabi）によれば、2013年のアブダビの150のホテル及びホテル・アパートメントの宿泊者数は2012年比約18%増の250万人に達した。こうしたことからアブダビ観光文化庁（TCA Abu Dhabi）は、2014年の宿泊者数の目標を前年比24%増の310万人に設定している。また、来訪者の宿泊日数も2012年比26%増の880万ナイツ（nights）弱、ホテルの総売上額も2012年比18%増の54.8億ディルハム（約15億ドル）を記録している。

こうした成果においてシェイク・スルタン・ビン・タフヌーン・アル・ナヒヤーンアブダビ観光文化庁（TCA Abu Dhabi）長官は、次のようにコメントしている。

- ① 2013年の成果は特に満足のいくものであっ

表7 ドバイ政府・政府系企業債務返済予定（2013～2017年以降）

（単位：100万ドル）

	2013	2014	2015	2016	2017	2018 以降	未分類	合計
ドバイ政府合計 A	100	22,034	556	1,293	1,850	1,932		27,765
債券	0	21,931	500	1,000	600	1,900		25,931
借入	100	103	56	293	1,250	32		1,834
ドバイその他 ソブリン合計①							21,464	21,464
国内借入							21,464	21,464
ドバイ投資社合計 (含、子会社) ②	2,824	701	674	6,579	1,723	9,867		22,368
債券	1,327	608	164	3,717	1,573	4,217		11,607
借入	1,497	93	510	2,862	150	5,649		10,761
ドバイワールド・子会 社・ナキール合計③	1,046	700	9,716	1,614	5,198	15,329		33,603
債券	0	350	3,200	0	1,500	3,522		8,572
借入	1,046	350	6,516	1,614	3,698	11,808		25,031
ドバイホールディング 合計(含、子会社) ④	136	4,573	0	5,955	984	0		11,648
債券	93	973	0	0	984	0		2,050
借入	44	3,600	0	5,955	0	0		9,599
その他ドバイ政府系 企業合計⑤	2,399	2,000	1,325	1,355	2,816	4,282		14,177
債券	871	200	1,325	500	0	1,500		4,396
借入	1,528	1,800	0	855	2,816	2,782		9,781
ドバイ政府合計 B (①～⑤の合計)	6,405	7,974	11,715	15,503	10,722	29,478		81,796
ドバイ債務 C (A + B)	6,505	30,008	12,271	16,796	12,572	31,410	21,464	131,026
ドバイ政府系企業出資 比率50%未満合計 D	1,298	450	500	4,142	800	4,270		11,460
債券	599	0	500	500	800	1,720		4,119
借入	699	450	0	3,642	0	2,550		7,340
ドバイ総債務 E (A + B + C + D)	7,804	30,458	12,771	20,938	13,372	35,680	21,464	142,486

出所：IMF Country Report No.13/239, United Arab Emirates 2013

Article IV Consultation, July 2013

注：2013年4月時点の状況

た。2013年中には新たに13ものホテル乃至ホテル・アパートメントが開業し、2012年に比べて室数も約10%増となる合計2万6,000室超が増えている。

- ② 今や我々は当初2014年に設定していた目標を達成してしまったので、我々は2014年の目標を修正し当初に比べてさらに10%増を目指している。
- ③ つまり我々は2014年の来訪者数を310万人に設定し、その後の年間増加率も10%を見込んでいます。
- ④ 2013年の場合、宿泊者一人の平均滞在日数は3.13ナイツ (nights) と2012年比7%増であった。その結果、ホテル及びホテル・アパートメントの平均客室占拠率は9ポイント上昇の71%に達した。
- ⑤ 我々は民間でのイベントがインセンティブとして新たに加わるので2014年の目標は容易に達成できると見ている。
- ⑥ 昨年の素晴らしい成果は関係各位の努力と関係各位に対する支援の着実な増加の賜物であった。今後も一つになって力を合わせれば上昇傾向の機運が続けられると考える。

なお、来訪者の国別内訳ではインドが17万5,929人（2012年比約27%増）と第1位で、アブダビと歴史的につながりの深い英国からの来訪者が16万2,973人（同左約12%増）とこれに続いた。

#### 初の国産衛星を2017年に打ち上げることを明らかにした UAE

アブダビ首長国の属するアラブ首長国連邦 (UAE) は、石油以外の産業の振興にも努めている。その一環として力を入れているのが通信衛星の分野である。一例がアラブ首長国連邦国営通信 (WAM) が2013年7月22日に伝えたシ

ェイク・ムハンマド・ビン・ザーイド・アル・ナヒヤーン・アブダビ皇太子兼 UAE 副参謀総長とジャン・イブ・ル・ドゥリアン仏国防相による総額7億ユーロ（約33億9,000万ドル）にのぼる軍事衛星事業への調印のニュースである。なお、同通信は同日の調印がシェイク・ハリーフ・アブダビ首長兼 UAE 大統領が、2013年1月に行ったフランス訪問時にフランソワ・オランド仏大統領と合意した「戦略的パートナーシップ枠組み」に基づくものであることも伝えた。

UAEの軍事衛星事業を獲得したのは、欧州航空防衛宇宙社 (EADS) の子会社であるアストリアムとタレス・アレニア・スペースである。アストリアムのフランソワ・オークエ最高経営責任者 (CEO) によれば契約額は両社で折半される。両社が米国のロッキード・マーチンとの競争に打ち勝って契約獲得に漕ぎ着けた取引の主な内容は次の通りである。

- ① 高解像度ヘリオス型軍事観測衛星2基の販売
- ② コントロール基地の建設
- ③ UAE 技術者20名の訓練

調印のためにアブダビを訪問したジャン・イブ・ル・ドゥリアン仏国防相に同行したフランス国防省筋は、当時、契約には両政府間による「付属協定」がついており、フランス軍の軍人による UAE 軍人の画像の解析の指導・研修や軍事衛星通信により取得した情報の共有も行われることになることを説明していた。

フランスが UAE から獲得した軍事契約は2007年のヤフサット契約 (Yahsat Contract, 因みに、同契約の内容は、通信衛星2基及びエアバス軍用 MRTT タンカー航空機3機の供与であった) が最後となっていただけに、今回の契



約は過去約6年の不振を挽回するものであった。

この点はジャン・イブ・ル・ドゥリアン仏国防相がアブダビに向かう機内で記者団に「今夕、我々は信頼の構築という画期的な出来事を成し遂げる」「自分は2012年5月に国防相に就任したが、フランスとUAEの関係は壊れかけていた」「信頼が損なわれ（軍事取引面では）何も起きていなかった」（AFP通信 2013年7月22日）と率直に述べ、UAEのフランスへの信頼が損なわれていたことを認めていた。

しかし同国防相は、就任後、UAE政府高官と数回にわたる協議を行い両国軍事レベルでの対

話の再開に成功していた。因みに、同国防相は、2013年7月上旬にもシェイク・ムハンマド・ビン・ザーイド・アル・ナヒヤーン・アブダビ皇太子兼UAE副参謀総長と会談し新たな協力関係の構築について協議していた。

それから5ヵ月後の2013年12月29日、シェイク・ムハンマド・ビン・ラシッド・アル・マクトゥーム UAE副大統領兼ドバイ首長が首長国先端科学技術研究所（Eisat）の訪問後ツイッターで次のように述べ、UAE初の国産衛星「ハリーファサット（KhalifaSat）」を2017年に打ち上げることを明らかにしている。

番号	発言内容
①	我々は本日、神のご加護により、アラブ世界で最初の突破となる初の国産衛星の建設に向けた行政上の一步を踏み出した。
②	シェイク・ハリーファUAE大統領にちなんで名づけられたハリーファサットは、2017年に太陽を回る地球の軌道上に打ち上げられる。
③	我々のUAE国民に対する信頼は無限であるので、我々の野心と成功は常に神に祝福されている。
④	宇宙、土木工学、エネルギー分野でのUAE国民の成功は、踏み出すことになる大きな発展の地平線と領域を初めて切り開くであろう。
⑤	アラブ人は創造的で勇敢である。指導者や我々の役割は相応しい環境を送出することである。
⑥	我々の歴史は、アラブとイスラムの科学者たちが世界の偉業に貢献してきたことを示しており、我々は依然同様の創造的な精神が子供たちに引き継がれていると考える。
⑦	私はハリーファサットのチームを個人的に監督しているし、UAE政府はその他分野でも同じようなチームを立ち上げるだろう。
⑧	ハリーファサットは、アラブの宇宙への進出が手の届かないものでもなく不可能なものでもないとのメッセージをアラブに与えている。UAEは、この分野の主要国との競争を行う自信と勇気を持つ限り宇宙産業の指導者となるだろう。
⑨	我々の扉は宇宙技術・エンジニアリング分野での全てのアラブとの協調に向けて開かれている。

番号	主 な 目 的 内 容
①	先端調査技術革新の促進
②	国際的競争力を持つ人的技量の開発
③	国際的宇宙技術開発におけるハブとしての UAE の位置づけ
④	首長国先端科学技術研究所 (Eisat) 衛星の潜在性の最適化
⑤	専門家技量の応用を通じた全分野での意思決定者への支援提供

UAEにとってハリーファサットは、ドバイサット1, ドバイサット2に続く三番目の衛星となる。ドバイサット1, ドバイサット2は、韓国企業サトレック (Satrec) との知識共有合意に基づきソウルで建造されたものである。この二つの衛星の製造では28名の UAE 人エンジニアが、経験を積み次の衛星を国産化するとの目

標の下、一定の役割を果たした。

なお、首長国先端科学技術研究所 (Eisat) は、次の諸目的を達成するために2006年に設立された機関である。

因みに、ハリーファサット建設に携わるナショナル・チームには、45名の UAE 国民が含まれている。